

後期高齢者医療制度の実施直後の影響調査（第1次報告）

2008年6月5日

東京民主医療機関連合会

会 長 石川 徹

〒170-0005

東京都豊島区南大塚2-33-10

電話 03-5978-2741

FAX 03-5978-2865

問い合わせ先：事務局（前沢・松岡）

4月1日から施行された後期高齢者医療制度は、当連合会に加盟する病院や診療所、介護保健施設などを利用する患者さんや利用者さんに深刻な影響と不安を与えています。そして、この制度が75歳という年齢で医療が差別される制度であるということがわかればわかるほど大きな怒りとなっています。

東京民主医療機関連合会は、「後期高齢者医療制度の中止・撤回を求める東京連絡会」の事務局団体として、世界に類を見ない制度の中止・撤回を求め、国会へ向けての座り込み行動や地域での「後期高齢者医療制度の中止・撤回を求める」一点での共同行動を広げています。

そして、制度の内容が周知・徹底されないままに、年金天引きが施行されたもとで、その直後の実態を把握するために「実施後の影響調査」を行いました。6月末まで調査は続けますが、とりあえず5月末まで集約できました554件の調査結果を報告します。

< 調査の概要 >

1. 調査時期 4月15日～5月末日
2. 調査対象 4月1日から年金天引きが実施された地域の病院・診療所・薬局・介護施設の75歳以上の患者・利用者さん
3. 調査機関 東京民主医療機関連合会に加盟する、病院・診療所・薬局・介護施設
4. 調査件数 554人
内訳 男性 35.2% 女性 62.6% 不明 2.2%
年齢 75～79歳 39.2%
80～84歳 56.0%
85～89歳 15.0%
90歳以上 8.3%
不明 9.2%
6. 調査方法 職員による対象者からの聞き取り及び患者・利用者さんによる記入

<調査の結果から>

1. 「制度の内容を知らない」人は24.2%

新しい保険証が送付されてきたにもかかわらず、「制度を知らなかった」人が2割以上存在しました。私たちの医療機関や介護施設では、昨年からの制度の周知・徹底のための学習会やチラシによる啓蒙活動も実施してきました。しかし、それだけでは十分理解できない。自治体の説明会も住民から要求されてやっと開催するとか、開催されても「国が決めた制度だから」と疑問に十分答える内容ではありませんでした。4月の実施後に、住民の声に押されやっと説明会を開催するというところもありました。

いかなる理由があったとしても、当事者である75歳以上の高齢者が、十分に理解できるための周知・徹底を国や自治体の実施しなかったことは大きな問題です。

- ・「次から次と新しいことをはじめて、老人にはわからないことだらけ。やめて欲しい(76歳)」

2. 保険料は、4月以前に払っていた時より「高くなった」人が37.5%、「あまり変わらない」人が12.9% 「わからない」人が33.6%

「後期高齢者医療制度」に移行前の保険は、9割が国民健康保険でした。その人たちの保険料が3月以前と比べて、「高くなった」人は37.5%で、「変わらない」人は13.0%でした。確定された保険料の通知はなく仮徴収の段階ですから「わからない」人(集約上のN.Aのほとんど)が33.6%もいました。

厚生労働省は、7割の人が「安くなった」という調査結果を発表しているが、私たちの調査では、4割近くの人が高くなったと答えています。「変わらない」という人が12.9%ですが、従来加入していた国民健康保険料は「高すぎる」ということから考えても「変わらない」人にとっても「安くなる」とならない限り、暮らしにのしかかる負担は、増となります。

- ・「年金は、7万9千円しかもらっていないのに、4月から介護保険料7,700円、後期高齢者医療保険料5千円引かれた(81歳)」
- ・「もらう年金は、金額が変わらないのに保険料など引かれるものばかり、それに物価も高くなって生活が心配。長生きしたって何もいいことがない(84歳)」

3. 「保険料の年金天引き」について、6割近くの人が「やめてほしい」

56.1%の人が、「保険料の年金からの年金天引きは困るのでやめてほしい」と答えています。怒りや不安の声がたくさん寄せられました。

- ・「4月の年金は、昨年度分に当たる2・3月の生活費であるのに、そこから今年度の保険料を差し引くのはおかしい(75歳)」
- ・「わずかな年金から保険料が引かれたことは非常に不快感、その上金額が上がっていくから不安。全ての面に出費を控えていくし、健康にも不安(76歳)」
- ・「そもそも年金の発足は、高齢者になってからの生活の安定をはかる目的に始められたと理解しています。それなのに年金を受け取る時期になってきたら、取りやすい年金から介護、高齢者医療保険の天引きは、高齢者の生活を脅かす以外の何ものでもない(78歳)」
- ・「年金よりの天引きは困ります。年金がどんどん小額になった。心細く、外出する回数が減り、家族から心配されています」
- ・「介護保険料と後期高齢者医療保険料を引き落とされると年金がほとんど残らない」
- ・「年金は2カ月で76,916円、介護保険料は2カ月で5,300円、後期高齢者医療保険料は

2カ月で6,300円。1カ月32,658円の年金ではとても暮らしていきません。物価の高騰で家族も大変なので、これ以上家族に迷惑をかけたくありません。やはり早く死んだほうがいいのか」

4. 医療費窓口負担は、半数（48.2%）の人が「あまり変わらない」

4月改定の診療報酬で「後期高齢者診療料」が設定されました。これを取得していない限りは、患者負担は大きくは変化しないと考えられます。

この「後期高齢者診療料」について、東京都医師会は「取得しない」ように呼びかけています。東京民主医療機関連合会加盟の医療機関においても「取得しない」ことをよびかけ、ほとんどの医療機関は算定していません。しかし、診察室では不安な気持ちで新しい治療や検査を拒否する患者さんもでてきています。「従来どおりの医療が受けられる」と説明しても説得するのは難しいことです。「十分な説明もないままはじめられた制度。保険料も知らされていない、不安だ。包括制などということは初めて聞いた。老人は理解することができない」「後期高齢者医療制度が始まり、今後受けられる健康診断が少なくなるとか、入院や手術の時の制限がでてくるのではないかと、診療もきちんと受けられなくなってしまうのではないかと不安である。持病を持っている人はどうしても病院にかからなければいけないので辛い。年をとってからこんな思いをすることは思わなかった」との声は当然です。

一方、「高くなった」と答えた17.8%の人は、病状の変化などによる治療の変化と考えられます。

5. 制度が始まって、3割を超える（34.1%）人が「困ったことがある」

制度が始まってから3人にひとりの人が「困ったことがある」と答え、「どちらとも言えない」と答えた人は32.3%でした。「とくにない」と答えたのは27.8%でした。「困ったこと」の内容はさまざまであるが、保険料や医療費の自己負担が暮らしを圧迫していること、生きがいを奪っている実態が、浮かび上がっています。

- ・ 「これまで74歳の夫の扶養だったので、今後どのくらいのお金が必要になるか不安でいっぱい」（「保険料が高くなった」と答えた79歳の女性：武蔵村山市）
- ・ 「高齢になれば慢性の疾患をいくつも抱える人が増すのは当然のことなのに治療を制限するのは非人間的である」「国保は自治体ごとに管轄するので被保険者の声が直接伝えられ、自治体によっては対処してくれるところもあったが、広域連合になると被保険者の声が届きにくくなり、補助などの対処がしてもらえなくなるのはまずい」（立川市 75歳）
- ・ 「高齢者にとっては、とてもわかりづらい制度になり受診しづらくなっています。なぜでしょう。あまり医者にかかるとはいけないのでしょうか。一所懸命生きてきた人生にとってもとても納得できません」（国分寺市 78歳女性）
- ・ 「友人や知人とのつきあいを減らし、外出が減った。毎年やっていたお花見会を今年は中止した。高齢者だけを切り捨てるような保険はやめて欲しい」

6. その他に寄せられた声は

「困ったことがある」との欄に書かれたひとつひとつの思いは切実です。75歳になってまでこんな思いをさせていいのか、苦労した世代への配慮のない制度に改めて「後期高齢者医療制度」は廃止しかない、の思いを強くします。

- ・ 私は、77歳ですが近所の方を病院に送迎しており、まだ社会の役に立っていると思います。それなのに、後期高齢者などと言われて憤慨しています。人間に格差があってもいいものですか。今の高齢者は、戦前戦後大変苦労をした人です。ご苦労様と言って医療費を無料にしても良いと思

います。ガソリン税で住宅を建てたり、テニスコートを作ったり、税金の見直しをして欲しい。

(77歳 女性)

- ・ 息子夫婦の世話になっていたが、後期高齢者などとなり生活しづらくなりました。(81歳)
- ・ 以前より年金額が半分になっている。健康が第一。旅行に行っていたが考えてしまう。(84歳)
- ・ 戦争中天皇のために働かされ、老後のこの仕打ちに怒っています。厚生労働省と政治家がにくい。彼らは国を滅ぼす為の社会的機構だ、民主主義が笑っている。
- ・ 老人を人間とは思わない風潮に怒りを覚えます。
- ・ 今まで国保で保険料は主人が出していたが、今度は私は独立させられ保険料を障害年金から天引きされた。月8万円の年金から介護保険料と合わせて天引きされた。ショートステイは7日間、介護度4なので居宅介護の費用は5万円近くかかるので生活費は残らない。安心してこれから生きていけない。
- ・ ひとり暮らしで年金から天引きされるのは困ります。救急でタクシーを利用するので診察代もかかりますので困ってしまいます。
- ・ 高齢者や病人を保護し、安心して医療が受けられるのが最大の政治の根本であり、また先進諸国が実施している医療制度を真似するのが日本である。他のモノマネはよくするが、医療制度はしないのが不思議である。
- ・ 月額9万円チョットの遺族年金からもキチッと天引きされていた。非課税世帯からも容赦なく天引きする制度はひどい。
- ・ 軍人として、戦闘に加わり国のため身命をかけて尽くしたのに、戦後はじゃまもの扱いして早く死ねとの仕打ちに苛立ちを感じます。戦中の苦勞の少しは分ってもらいたいものです。戴いた勲章は、おもちゃだったのでしょか。(旭六)(90歳 男性)

7、最後に

わたしたち東京民主医療機関連合会は、「いのちは平等」をモットーに1953年に結成され、現在まで医療・介護・福祉分野での活動をすすめてきました。75歳でいのちに線引きをする後期高齢者医療制度は、憲法25条をないがしろにし、高齢者の受療権を奪い「いのちは平等」に反します。

私たちは、ただちに「後期高齢者医療制度」を廃止し、病気になっても介護が必要になっても安心して医療・介護が受けられる制度をつくることを国へ要請します。そして、東京都をはじめとする自治体は、地方自治法による「住民の健康をまもる」義務を果たす立場から「後期高齢者医療制度の中止・撤回」をもとめて国へはたらきかけることを要請します。